

## NATO の民間傭兵会社になったウクライナ

ドミトリ・コバレヴィッチ（ウクライナ共産主義党ポロトバ）

オリノコ・トリビューン 2024 年 5 月 19 日

[Ukrainian Communist Dmitri Kovalevich: Ukraine Has Become a Private Mercenary Company of NATO to Fight Against Its Opponents \(Interview\) – Orinoco Tribune – News and opinion pieces about Venezuela and beyond](#)

「ウクライナは、NATO の敵対勢力と戦うためだけに存在する NATO の民間傭兵会社になってしまった」と、ウクライナの共産主義者でジャーナリストのドミトリ・コバレヴィッチが、オリノコ・トリビューン誌のインタビューで語った。

「ウクライナの国会議員たちは言っている。ウクライナ兵は、今日アメリカから援助をもらうため、将来、他の戦争でもアメリカ側にたって参戦しなければならなくなるだろうと。簡単に言えば、彼らはペンタゴンがグローバルサウスの反抗的な国々を弾圧するために送るところならどこへでも行くということだ」。

コヴァレヴィッチによれば、ウクライナにおけるすべての決定は、軍事だけでなく経済も含めてアメリカがコントロールしている。「ウクライナの兵士たちはウクライナ軍司令部ではなく、西側の教官の助言に従って行動している」のだ。

「軍事的にも、ウクライナは NATO 諸国からの武器供給に完全に依存している。それがなければ、ウクライナ軍はもたない。実際、ロシアはしばしばメディアで、NATO の代理軍と戦っている」と強調している。ウクライナは顔にすぎないのだ。

ウクライナ経済については、「IMF をはじめとする欧米からの借金で首が回らな

くなっている。返済はできないだろう。NATO 事務総長(イェンス・ストルテンベルグ)は最近、「ウクライナが勝たなければ、再建する意味はないと言った」。

彼はまた、強権的な徴兵法のせいで、ウクライナの男性の多くが定職に就いていないと指摘した。「多くの人々は非正規の仕事で生き延びている」。

さらに国外に四散した多くの人々が、ウクライナ国籍やウクライナとの結びつきを断とうと必死になっている。

親米的なウクライナの新国家構想は持続不可能で、ウクライナ人の生命、健康、財産を常に犠牲にしなければならないが、その見返りは何もなく、新自由主義路線の一環として、社会保障費を削減し、病院、学校、企業を閉鎖している。

ドミトリ・コバレヴィッチはキエフ在住のウクライナの共産主義者。2014 年のユーロマイダン・クーデター後、禁止された共産主義政治組織**ボロトバ**のメンバーである。英語版アル=マヤディーン誌のウクライナ特派員をしている。彼は、(ベネズエラの)オリノコ・トリビュン誌とのインタビューで、ウクライナでの過激なナショナリズムの台頭、ドンバスとクリミア地域の自治問題、ロシアに対する NATO の代理戦争、ウクライナの社会経済状況などについて語った。インタビューの全文は以下の通り。

**サヘリ・チョードリー** ウクライナでの戦争をどのように見えていますか。ロシアのプーチン大統領は、ロシアとウクライナの人々の「歴史的関係」から、これを「内戦」と呼んでいます。本当にそうなのか。両国の人々の間にはどのような歴史的関係が存在し、2014 年のユーロマイダン・クーデター以降の出来事でどのような影響を受けているのだろうか。

**ドミトリ・コバレヴィチ**：これは真の内戦といっても過言ではありません。ウクライナでは人口の約半分がロシア人かロシア語を話すウクライナ人です。ロシアでは、ウクライナ人はロシア人に次いで多い民族の一つです。ロシア政府内にも多くのウクライナ人がいます。同時に、ウクライナの内戦ナショナリストの中にもロシア系民族が多く、親米派クーデター後の 2014 年にドンバスに対する戦争

を始めたオレクサンドル・トゥルチノフもその一人です。そしてこの戦争が2022年にロシアが作戦を開始した背景となっています。

ロシアに移住するウクライナ住民は、別の言語や別の文化を学ぶ必要はありません。ウクライナに移住するロシア住民も同様です。どちらの国でも、何百万人もの住民が混血家庭の出身であり、ウクライナ人やロシア人であることを強調するのは、ナショナリズムのイデオロギーへの政治的信念を示すだけであることが多いのです。

現在ウクライナで攻勢を指揮しているロシアの将軍の中には、ウクライナ生まれで、かつてウクライナ政府軍（AFU）に所属していた人も少なくないのです。またウクライナ軍を率いているシルスキー将軍はロシア出身で、両親はロシアに住んでおり、ロシア連邦支持者です。シルスキーはいまだにウクライナ語を話せません。一般市民にナショナリズムを売り込んでいるウクライナの指導者のほとんどがそうです。1980年代、シルスキー将軍はモスクワの赤の広場でパレードをしています。

伝統的に、1917年革命後のウクライナの出来事は、常に内戦（1918～1920年）と解釈されてきました。その内戦には、ロシアの君主主義者（白衛軍）と、ウクライナおよびロシアの革命勢力（ポリシェヴィキ、アナキスト、SR）、それにウクライナのナショナリストが参加したのです。

さらに、ウクライナではユーロマイダン以降、ウクライナ人としての民族的自己認識が政治的自己認識に置き換えられるようになり、これが一般住民をさらに混乱させています。マスメディアでは、こんな見出しが目につきます。「ウクライナ人はモスクワの教皇たちに立ち向かった」。しかしこれは、民族主義者たちがウクライナ正教の信者たちを攻撃するさいに使うもので、その信者のほとんどはウクライナ人なのです。現政権への批判は時として「反ウクライナ」と言われます。また欧米の傭兵になっている人たちは「名誉ウクライナ人」とされ、武器を取りたがらない平和主義者は「反ウクライナ」とされています。

またウクライナは、ロシアとベラルーシに関係するルスという名称を使うこと

をやめず、ルスの中心地はモスクワではなくキエフであるとみなしています。そしてウクライナの民族主義者はロシアを「間違った」「アジア的な」ロシアとみなし、「ヨーロッパ的な」ロシア、すなわちウクライナと対比させているのです。

**サヘリ・チョードリー**：ドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国は最近、ウクライナからの分離独立から 10 周年を迎えました。あなたは様々な機会に、これらの地域の人々は自治を望んでいたものであり、彼らは「分離主義者」ではなかったと述べています。彼らはどのような自治を望み、なぜ最終的に分離独立したのでしょうか。

**ドミトリ・コバレヴィチ**：10 年前、ドネツク出身のウクライナ大統領ヴィクトル・ヤヌコヴィッチがマイダン・クーデターで倒された結果、2 カ月後に、ドンバスの各州で住民投票が実施されました。ドンバスでは、このクーデターに対して極めて否定的な反応があったのです。それ以前のマイダン期(2013~2014 年)には、キエフでマイダン参加者と反マイダン参加者(後者の多くはドンバス、クリミア、オデッサ、ハリコフの住民)の衝突がありました。この対立が土台になって紛争がさらに発展したのです。

2014 年 3 月 13 日のこの映像は、ウクライナのナショナリストに対するドネツク住民の大規模な抵抗を示している。ナショナリストの中にはウルトラのサッカーファンもいましたが、かれらは親ソ感情を弾圧し、キエフで先にやったように集団でドネツクのレーニン記念碑を取り壊しに来たのです。マイダンの主な攻撃勢力が急進的なナショナリストがであったため、ウクライナ南東部の住民にとっては、クーデターによっていくつかの権利(言語的、文化的、経済的権利)を奪われることは明らかでした。

そのため、当初ドンバス(ドネツク盆地の略)は、自治、自治政府、どの言語を話し、どの英雄を称えるかを自分たちで決める権利だけを要求したのです。ドンバスの自治を求める集会は、ウラジーミル・レーニンの記念碑の近くで始まり、レーニン記念碑を 24 時間体制で警備するなかで、後に民族主義者に反撃する民衆の自警団へと発展したのです。

ドンバスの自治は、2022年2月まで有効だったミンスク協定でも規定されてきました。つまり、ウクライナが自治を保証すれば、ドンバスはウクライナに返還されることになっていました。しかしウクライナ当局にはそうする気がありませんでした。理由は2つです。(1)ウクライナの民族主義者にとっては、民族主義者の友人の仇を討つために、ドンバスの動きを最終的に武力で制圧することが重要であった。(2)ウクライナの新政権に資金を提供している西側諸国にとっては、ロシア連邦との国境で常に緊張を維持することが重要であり、できればドンバスからロシア連邦に数百万人が大量に流出して、そこに社会的危機を作り出すことが重要であった。

**サヘリ・チョードリー**：あなたは、ウクライナ紛争に関する最新の月例報告の中で、クリミアには1990年代から自治政府があり、ウクライナ政府の支配力は常に弱かったと述べていますね。いまではこのような話は聞きません。クリミアにとってその自治政府はどのような意味があったのでしょうか、またそれが2014年3月に住民投票によってロシアに復帰する重要な要因となったのでしょうか？

**ドミトリ・コバレヴィチ**：クリミアは1954年にニキータ・フルシチョフからウクライナとロシアの友好の証としてウクライナに譲渡されました。これは、1654年に現在のウクライナの領土の一部をポーランド王国からロシア王国に譲渡する条約（これは長い農民戦争と宗教戦争の結果であった）の調印300周年記念としておこなわれたものです。

しかし、ウクライナソビエト連邦への移行がクリミアにとって実際に意味を持つのは1991年になってからです。ソビエト連邦崩壊後、もともとウクライナ人の人口が少なかったクリミアは、ソビエト連邦の一部としての自治権創設を問う住民投票を実施しました。ウクライナ（当時はまだソ連の一部）はクリミアの自治を承認しました。この状態でクリミアもすぐにウクライナの一部となった。

2014年まで、ウクライナの力は半島では確かに弱かった。その一方で、クリミアは中央（キエフ）から実質的に何も受け取っておらず、その結果、クリミアの

インフラやモニュメントは(ウクライナ全土と同様に)徐々に荒廃していきま  
した。

2014 年以降、クリミアとドンバス共和国の分離独立は、他地域からの数十万人  
の移住をともなって、ウクライナの政治的バランスを変化させました。残りの地  
域では、ナショナリストと NATO, EU 支持者たちは、すくなくとも半分の票があ  
ると主張できるようになったのです。それ以来、彼らは自分たちが欲しいのは領  
土だけで、住民ではないと繰り返し述べてきました。メディアで表明されたこう  
した態度は、これらの地域の住民の抵抗を強めるだけだった。

ソビエト連邦崩壊後、すべての旧ソビエト共和国では、生活水準の悪化とそれに  
伴う内部競争の激化の結果、地域間の分裂が激化しました。

**サヘリ・チョードリー**：住民投票に関してですが、ドネツク・ルガンスク両共和  
国は 2022 年 9 月に住民投票によってロシア連邦に加盟しました。しかし、投  
票中に報道陣の取材に応じた住民によると、初めての住民投票ではなかったと  
いいます。以前の住民投票はいつ行われ、自治権か分離独立か、何に関するもの  
だったのでしょうか。

**ドミトリ・コバレヴィチ**：ドンバスでの最初の住民投票は 1994 年、ウクライナ  
の議会選挙と同時に行われました。主な質問は、ウクライナを連邦として認める  
かどうかというもので、これは(ロシア連邦、ドイツ、アメリカ、インド、ブラ  
ジルなどのように)地方の一定の自治を意味するものでした。

ドネツク州とルガンスク州の住民は、ロシア語を第二の国語として認め、ロシア  
との経済関係を強化することにも賛成しました(ロシアはドンバス企業の製品  
の主な買い手でした)。その結果、圧倒的多数が連邦制、第二の国家言語、ロシ  
アとの関係強化を支持したのです。

2014 年には、ドネツク州とルガンスク州で 2 つの住民投票が実施されました。  
住民投票では、2 つの言語(ロシア語とウクライナ語)で一つの質問が行われま  
した。「ドネツク / ルガンスク人民共和国の国家自治 (samostoyatel'nost) 行

為を支持しますか、というもので、選択は「はい」と「いいえ」でした。

質問で使われた「サモストヤテルノスト」という用語は、完全な国家主権と、国家主体内の自治の両方を意味します。ロシアは事態を複雑にしないために国民投票の延期を勧告したのですが、実施されました。

次の住民投票は 2022 年に実施され、ロシア連邦への加盟を問うものでしたが、まさに共和国（DPR と LPR）として、つまり共和国の属性をすべて保持した自治共和国として実施されまし

言い換えれば、ウクライナの民族主義的政策にとって、連邦化はとっくの昔に「分離主義」と同一視されており、自治の要求は国家統一のために抑圧されました。一方、ロシア連邦は、その構成内の自治体、共和国を、それぞれの国の言語、文化的特殊性、経済的結びつきとともに尊重する扱いをしています。

ウクライナが言語と文化の多様性を持つ連邦構造になれば、クーデター後のウクライナの NATO への急旋回や、ロシア、中国、イランとの関係断絶を防ぐことになるでしょう。多様性と連邦構造は、急旋回をしにくくします。

**サヘリ・チョードリー**：今年ユーロマイダンのクーデターから 10 周年です。この「節目」をウクライナでは、政府も国民もどのように記念してきたのでしょうか。

**ドミトリ・コバレヴィチ**：ウクライナでは、戒厳令が敷かれている間は、すべての集会在安全でないといみなされて禁止されています。急進的な民族主義者たちは定期的にデモ行進を行っていますが、彼らは政府の主要な支えになっているため、触れることはありません。しかし、このところ目立ったイベントはありませんでした。ウクライナの関心は、前線での出来事、大量徴兵、米国と EU への資金拠出の嘆願に集中しています。マイダンの出来事は後回しにされ、マイダン期の刑事事件は何年も続く法的手続きの中に埋もれています。

ウクライナのメディアや当局者は毎日、感情的な訴えやヒステリックな宣言で

疲弊した国民を奮起させようとしています。一般人は無視しがちで、メディアにも同調せず、ユーロマイダンはもちろん、1年前の出来事すら忘れてしまっているようです。

しかし、ウクライナ人はいったん祖国から脱出すると、たいていは祖国に関心を持たなくなります。例えば、最近の調査では、ドイツ、ポーランド、チェコに住むウクライナ人の半数がウクライナの出来事に関心がなく、ウクライナに戻る予定もないという結果が出ています。

何百万という国民がウクライナの市民権や現在のウクライナ国家との結びつきをなんとかして取り除きたいと思うようになっているとも言えるのではないのでしょうか。というのも、ユーロマイダンのクーデター後の2014年、国民のコンセンサスが強引に崩れてしまったからです。ほとんどのウクライナ人は、ただ生き、働き、国家からの嫌がらせを受けずに済むことを望んでいたのです。ユーロマイダン後の)親米的なウクライナ新国家構想は、ウクライナ国民に絶えず自分たちの生命、健康、(そして)財産を犠牲にすることを求めます。しかし何の見返りもなく、新自由主義路線の一環として社会保障費を削減し、病院、学校、企業を閉鎖を求めますが、それはとても持続不可能です。

**サヘリ・チョードリー**：2024年5月2日で、オデッサ労働組合会館虐殺事件から10年が経ちました。ロシア人が多く住むオデッサの現状はどうか。同地をはじめロシア系住民が多い他の地域で自治運動はあるのでしょうか。

**ドミトリ・コバレヴィチ**：2014年以降、オデッサの住民の多くがロシアに移住しています。ドンバスでは、彼らが共和国のいくつかの武装組織のバックボーンを形成していました。一般的に、ここ数年、政治的、経済的なさまざまな理由で、ウクライナを離れる人が何千人もいます。オデッサでは、ウクライナの他の地域と同様、強制徴兵が行われており、男性は毎日路上で捕まり、強制的に前線に送られています。毎日何千人もの男たちがオデッサ地方を通過してモルドバやルーマニアに逃げているため、国境沿いには何百台もの車が放置されています。ウクライナ当局は現在、国境沿いに溝を掘り、有刺鉄線を張ったフェンスを何列も並べて、男たちの逃亡を防いでいます。国内には戦う男たちがほとんどいなくなっ



ています。

ロシアとウクライナのメディアは定期的に、鉄道破壊行為がオデッサのパルチザンの仕業だと書いていますが、私には確認ができません。ウクライナに反対運動があったとしても、長年にわたる弾圧と極右テロによって、地下深くに追いやられています。

ウクライナの治安当局もまた、不誠実な市民を特定することを任務とする「おとり」(偽の抵抗組織)を定期的に作り出しています。

他方、現在、ロシアとEUの両方に、ディアスポラが数百万人います。彼らはも、オデッサ、キエフ、ハリコフ、リヴィウの住民たちで、人道物資のために出国して帰国しない元運転手、元警察官、亡命軍人や普通の農民などで、通常、移住を好まない高齢者を考慮にいれなければ、今やウクライナ国民は、国内よりも国外にいる人の方が多いのです。

**サヘリ・チョードリー**：ウクライナの人々はどのような状況で日常生活を送っているのでしょうか。ウクライナ政府に対する見方や、ゼレンスキーの支持率はどうでしょうか。

**ドミトリ・コバレヴィチ**：どんな戦争でも、人道物資や武器、外国からの援助を盗んで利益を得る小さな集団が現れます。この点で、ウクライナ人のごく一部、エリートに近い人たちは、かなり潤っています。キエフほど高価な車を一日に何台も見かける国はヨーロッパにはほかにありません。こういう類の人々にとっては、戦争が永遠に続くことが重要です。

ウクライナに残っている人々は、戦っている人々や死傷者の親族と、戦争に触れていない人々の2つに分かれています。当局は巧みに操り、一方のグループを他方のグループと対立させています。これは「正義」を装って行われている。ウクライナ当局が国民に植え付けた論理では、国民の一部が苦しむのであれば、他のすべての人々も同じように苦しむべきだということになります。このような操作によって、自分たちの腐敗にたいする国民の不満をそらしているのです。

当然ながら、生活水準は著しく低下しています。ウクライナはすでにヨーロッパ大陸で最も貧しい国であり、隣国のモルドバとその座を争っています。国内避難民には最近まで、月 50 ドルが支給されていましたが、避難民用のホステルの光熱費と水道代として 40 ドルを支払わなければなりません。この春、その 50 ドルも取り上げられました。当局は、支給額の減額や病院や学校の閉鎖を軍事的な必要性だと説明しています。一方、ウクライナ経済はもっぱら欧米諸国からの融資に頼っていますが、その融資は以前の融資の一部返済でにあってられています。

現在、ウクライナ人男性は海外に出ることはできませんが、合法的に就職することもできません。就職してもすぐに軍隊にとられるからです。多くの人々が非正規雇用のおかげで生き延びている状況です。

ゼレンスキー個人とウクライナの政治家に対する態度は、人々が質問に答えることを恐れているため、追跡が難しい。社会福祉サービスの対象は、当局の関係者だけです。たとえば最近、キエフ国際社会学研究所が行った世論調査によると、ウクライナ国民の圧倒的多数は、すでに何十億もの電気料金の未払いがあるのに、電気料金の値上げを受け入れる用意があると回答しました。これは世論調査がインチキであることを示しています。街頭では、人々は政治や軍事問題について議論することを恐れています。治安当局が、ゼレンスキーや NATO について否定的な考えを示した子どもたちを毎日拘束などして、人々を脅迫しているからです。

**サヘリ・チョードリー**：ウクライナ軍が戦場で負け続けているのに、なぜゼレンスキー政府はドンバスだけでなく、国境を越えたロシアのベルゴロド州、クルスク州、ブリアンスク州でも民間人を攻撃しているのだと思いますか。

**ドミトリ・コバレヴィチ**：2014 年のウクライナ政府転覆作戦とそれに続くドンバスでの戦争全体を通じて、標的はウクライナではなくロシアです。西側諸国にとっては、ロシア連邦内の不満やクーデター、社会的緊張を引き起こすことが重要なのです。ウクライナによる攻撃は自殺行為ですが、どこに進出し、何を弱体

化させ、何を砲撃するかを決めるのはウクライナの指揮官ではないのです。ウクライナ兵は西側の教官の助言に従って行動しています。

ウクライナの国会議員たちはこうも言っています。ウクライナ兵は今日、米国から援助を受けるために、将来は他の戦争に米国側にたって参戦しなければならない。簡単に言えば、彼らは米国防総省がグローバルサウスの国々での反政府運動を鎮圧するために派遣するところならどこへでも行くということです。

実際、ウクライナは NATO の私的な傭兵会社になっており、NATO の敵対勢力と戦うためだけに存在しています。

**サヘリ・チョードリー**：ウクライナでは、戦争だけでなく経済や政治面でも、アメリカや NATO の影響がどの程度感じられますか。

**ドミトリ・コバレヴィチ**：ウクライナの経済は破綻し、IMF や欧米からの借金で首が回らない状態です。この借金を返済することはできないでしょう。NATO 事務総長は最近、ウクライナが勝たなければ再建の意味はないと言いました。軍事的にも、ウクライナは NATO 諸国からの武器供給に完全に依存しています。それがなければ、ウクライナ軍は存続できません。翻ってロシア連邦も、NATO 圏そのものを非武装化し、NATO の代理軍と戦っていることをしばしばメディアで強調しています。ウクライナで戦っている NATO 諸国の傭兵は数千人います。ネオナチのカルパチアン・シヒ大隊で戦うコロンビアからの傭兵もいます。

さらに、ウクライナ当局は、水道料金の水準から負傷者への手当の削減まで、あらゆる経済的決定を西側諸国（主に米英で、他の NATO 諸国は影響力を持たない）の大使館の勧告に基づいて行っています。ウクライナ人は拒否する立場にはないと言われています。簡単に言うところです。もし米国から融資が得られれば、今月ウクライナの教師の給料を支払う。もし融資がなければ、給料を払わないか、あるいは辞めるよう助言する。

**サヘリ・チョードリー**：戦争の終結をどのように想定していますか。2022 年 9 月以降、すでにロシアの一部となった 4 つの州に加え、ウクライナはさらに領

土を失うと思いますか。NATO が戦争に全面的に関与し、「核オプション」が発動される可能性もあるのでしょうか。

**ドミトリ・コバレヴィチ**：そうですね、ウクライナはさらに領土を失うことになるでしょうが、途方もない対外債務を抱えたまま国家として残ることになると思います。プーチンは最近、砲撃や侵攻からロシア領土を守る「聖域」について語り、その後、2024 年 5 月にハリコフ地方で新たな攻勢をかけると述べました。私は、NATO がブロックとして核保有国に直接対抗する勇気があるとは思いませんが、おそらくウクライナの兵力が尽きたら、東欧諸国や他の米国の衛星国からさらに多くの兵力が派遣されるでしょう。結局のところ、西側諸国にとって死活的に重要なのは、世界的な覇権とグローバルサウス諸国に条件を指示する能力を維持することなのです。

(了)

オリノコ・トリビューン特別寄稿：サヘリ・チョードリー

【翻訳チェック 田中靖宏】